



鉄道高架化整備効果

相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

● 事業のあらまし

天王町駅及び星川駅周辺は、保土ヶ谷区の中心部として位置づけられており業務、商業、文化、交流、行政機能等が複合した、つながりのある一体的なまちとすることを将来の目標としています。

しかし、区を横断する相模鉄道本線により、踏切遮断による慢性的な交通渋滞や地域の分断が生じていました。

そのため、天王町駅と星川駅を含む延長約 1.9km 区間において、踏切 9 箇所の除却を目的とした連続立体交差事業を実施し、地域交通の円滑化及び地域の一体化による生活環境の向上や踏切事故の解消を図りました。

また、連続立体交差事業による鉄道の高架化とあわせ、星川駅前広場や周辺の道路についても、沿線のまちづくりの一環として整備しました。

事業主体	横浜市
施行主体	相模鉄道株式会社
事業延長	約 1.9 キロメートル (天王町駅付近～星川駅付近)
構造型式	高架方式
踏切除却数	9 箇所
事業期間	2002年度～2021年度(完了) (平成 14 年度～令和 3 年度)



CONTENTS

■ 踏切遮断の解消	4 P
■ 移動時間の短縮	5 P
■ CO ₂ 排出量の削減	6 P
■ 地域分断の解消	7 P
■ 歩行者の安全・安心	8 P
■ 駅前広場の整備	9 P
■ 高架下空間の活用	10 P
■ 地域の魅力向上	11 P
■ 事業の便益	12 P
■ 経済波及効果	13 P



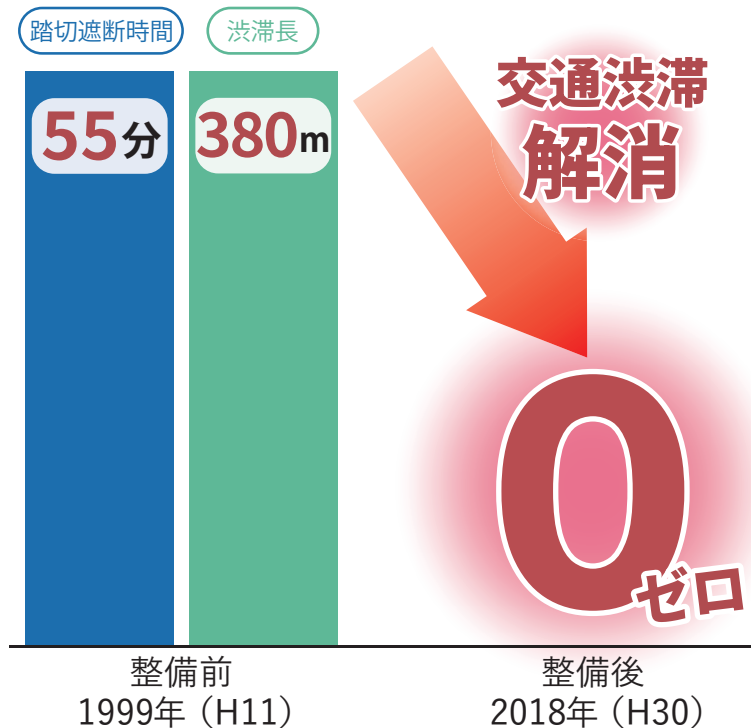
踏切遮断の解消

踏切遮断と渋滞の解消

鉄道高架化により9箇所の踏切が除却され、交通渋滞が解消しました。例えば、星川2号踏切では1時間当たり55分あった踏切遮断時間がゼロ分となり、最大380mあった渋滞長がゼロmとなりました。

踏切遮断時間とは

1時間当たりの遮断機が降り始めてから遮断機が開くまでの合計時間



以前は踏切が開かないので他の道にう回していましたが、鉄道高架化により渋滞のストレスが減りました。



踏切の事故や待ち時間が無くなったことが一番効果を感じています。道路がきれいに整備されたことで防犯性も高まったと思います。

沿線住民アンケート調査より (R5)

整備前



整備後



天王町3号踏切

移動時間の短縮

線路を横断する移動時間の短縮

踏切を除却したことで自動車の移動時間が短縮しました。
例えば、星川2号踏切の横断箇所では約1kmを移動する時間が約1/2に短縮しました。



線路を横断する移動にかかる時間

7.5分

約-55%
短縮

3.4分

整備前

整備後

2016年 (H28)

2023年 (R5)

※タピーク時 (17時~20時) の平均所要時間

整備前



整備後

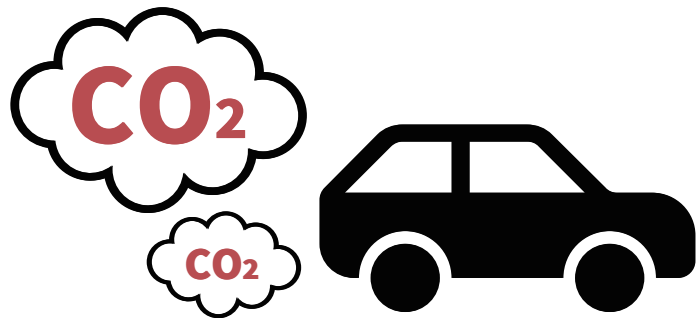


星川2号踏切

CO₂排出量の削減

交通円滑化による CO₂ 排出量の削減

渋滞が解消されたことで自動車の走行がスムーズになり燃費が向上するため、年間約 2,400 トンの自動車からの CO₂ 排出量が削減されます。



年間

約 **-2,400** トンの削減

年間

約 **2,400** トン ➤

約 **17** 万本 (270ha 相当) の杉の木
が1年間に吸収する CO₂ 量に
相当する



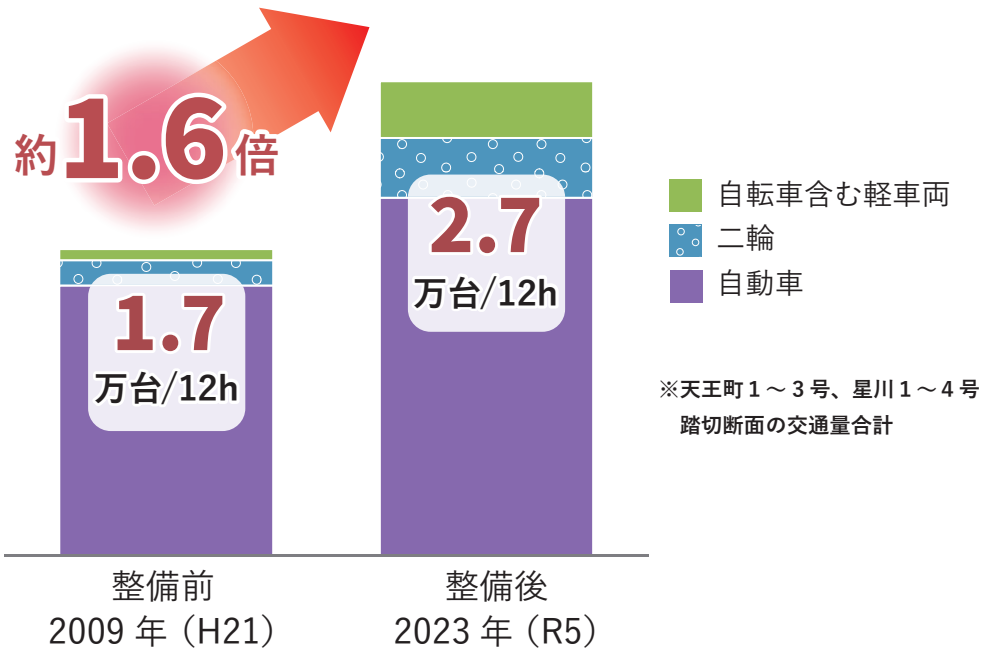
横浜市地球温暖化対策実行計画

横浜市では、地球温暖化対策推進法に基づく「横浜市地球温暖化対策実行計画」において2050年までの脱炭素化を目的とした「Zero Carbon Yokohama」の実現を掲げています。

地域分断の解消

踏切横断箇所における交通量の増加

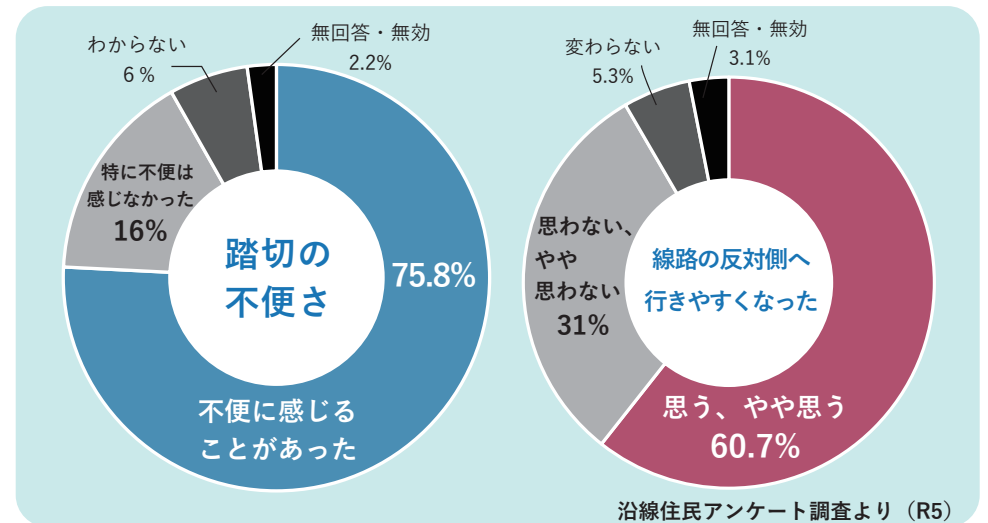
踏切を除却したことで、行きにくかった線路の反対側への移動が増加しました。



踏切が無くなり道路が整備されたことで、移動がスムーズになり、日常生活における利便性が大変向上したと感じています。

日常生活での移動利便性向上

多くの方が踏切を不便に感じていましたが、鉄道高架化により、線路の反対側へ行きやすくなったと実感されています。



星川駅自由通路



星川駅の1階で 通り抜けできる ようになり便利 になりました。

歩行者の安全・安心

安全・安心な移動の実現

通学路に踏切があることで、事故の危険性がありましたが、鉄道高架化により踏切が除却されたことで安全性が向上しました。



子どもの通学での事故の心配が減り、公園や図書館を利用しやすくなりました。

整備前



整備後



星川 5号踏切

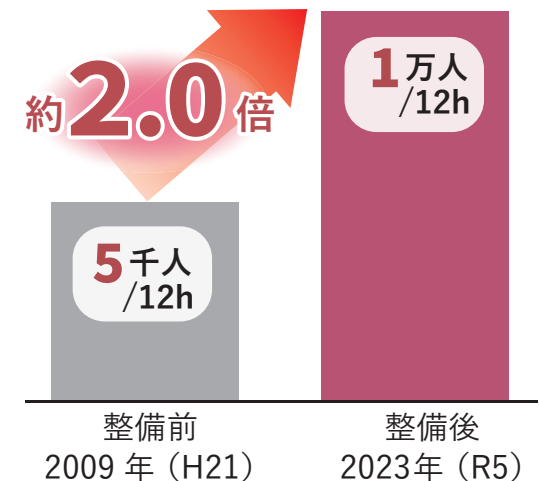


高架下通路



周辺道路の歩道

踏切横断箇所における歩行者交通量の変化



整備前 2009年 (H21) 整備後 2023年 (R5)

※天王町 1~3号、星川 1~4号踏切断面の交通量合計

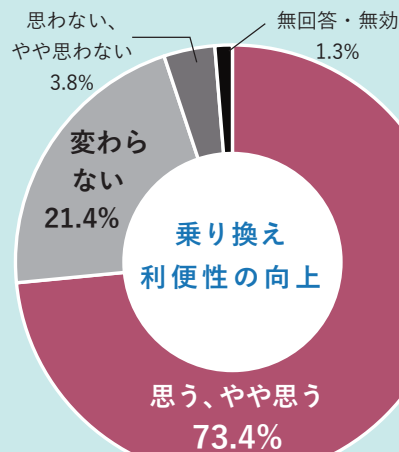
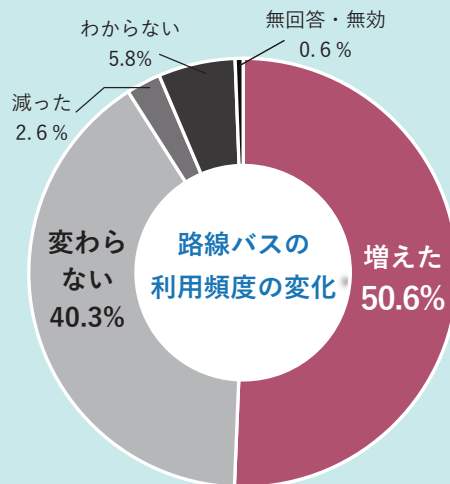
駅前広場の整備

交通結節点機能による利便性向上

星川駅駅前広場にバス乗り場、タクシー乗り場等を整備したことで、バスの利用頻度が増え、交通結節点としての利便性が向上しました。



バス路線も星川駅発着が増えて、移動が楽になりました。



星川駅駅前広場でのバス利用者アンケート調査より (R5)

駅前広場の活用

鉄道高架化を契機に「星川商店会」が結成され、「星川まつり」が実施されています。



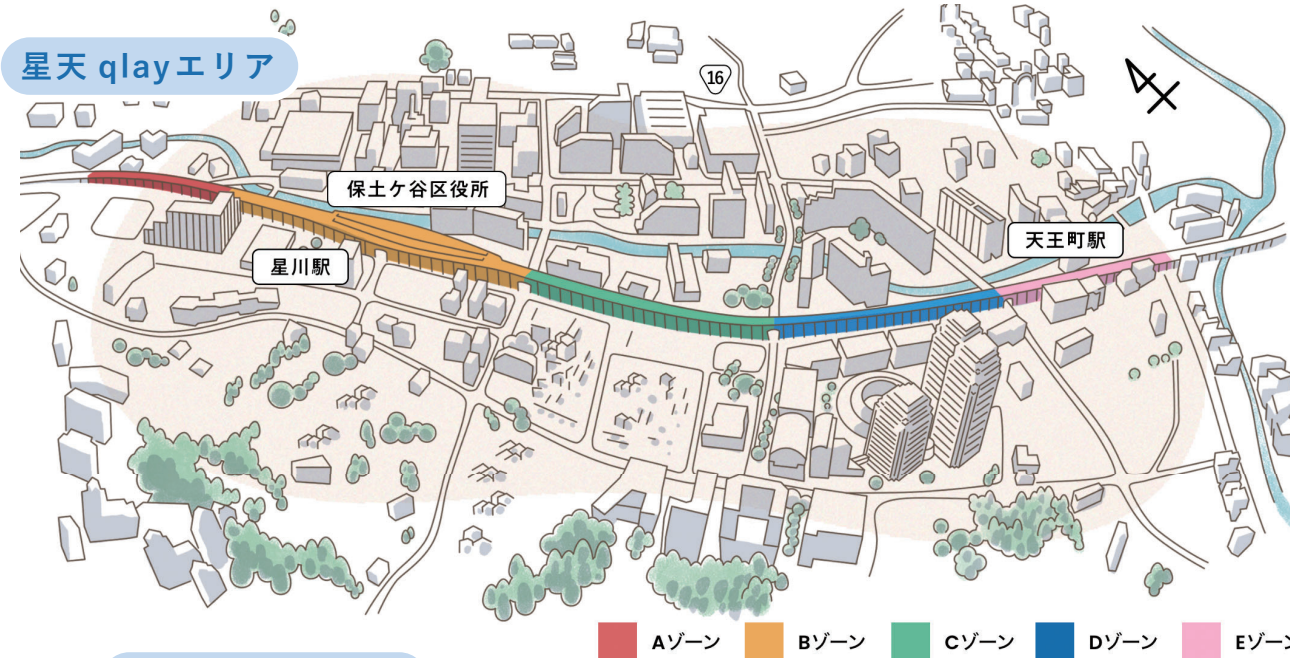
(星川商店会提供)



星川駅の駅前が立派になり、人出が増えてまちに活気が溢れていると思います。

高架下空間の活用

高架下空間に新たなにぎわいを創出



星天 qlayとは

相鉄グループが鉄道高架化により創出された、全長約1.4 kmのエリアをA～Eの5つのゾーンに分けて、商業施設「星天 qlay」を展開しています。このエリアは、「星川駅周辺地区総合的なまちづくりガイドライン」に基づき、にぎわいと交流を創出するまちづくりを推進しています。



新しいお店ができてまちが綺麗で明るく、
住み心地が良くなったと思います。



にぎやかな雰囲気のお店ができて、
元気を貰っています。



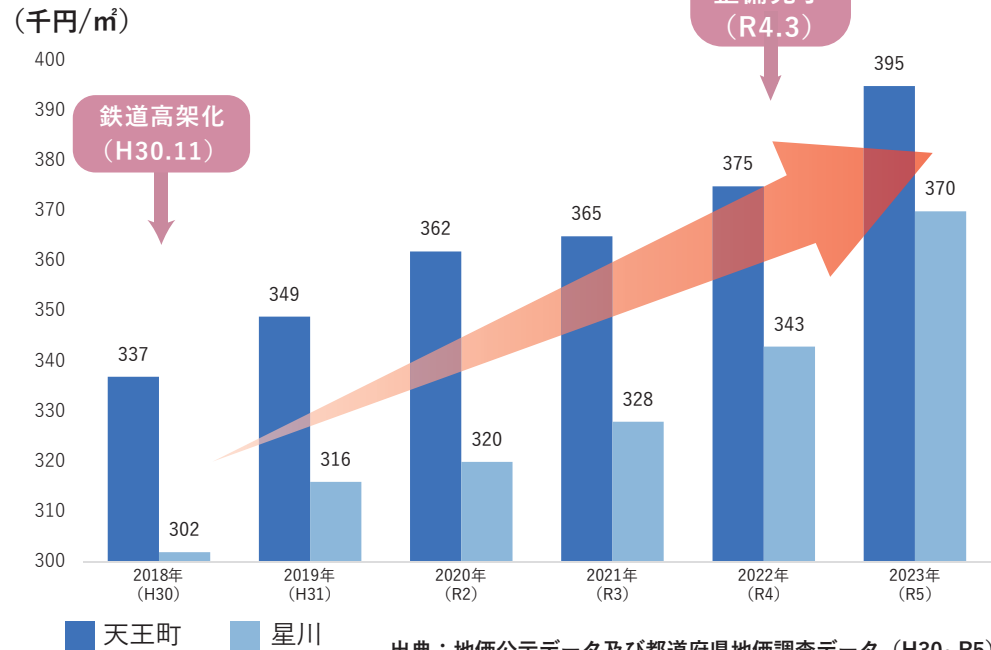
地域の魅力向上

地価の上昇

にぎわいと住みやすさの向上により、沿線地域の価値が上昇しています。



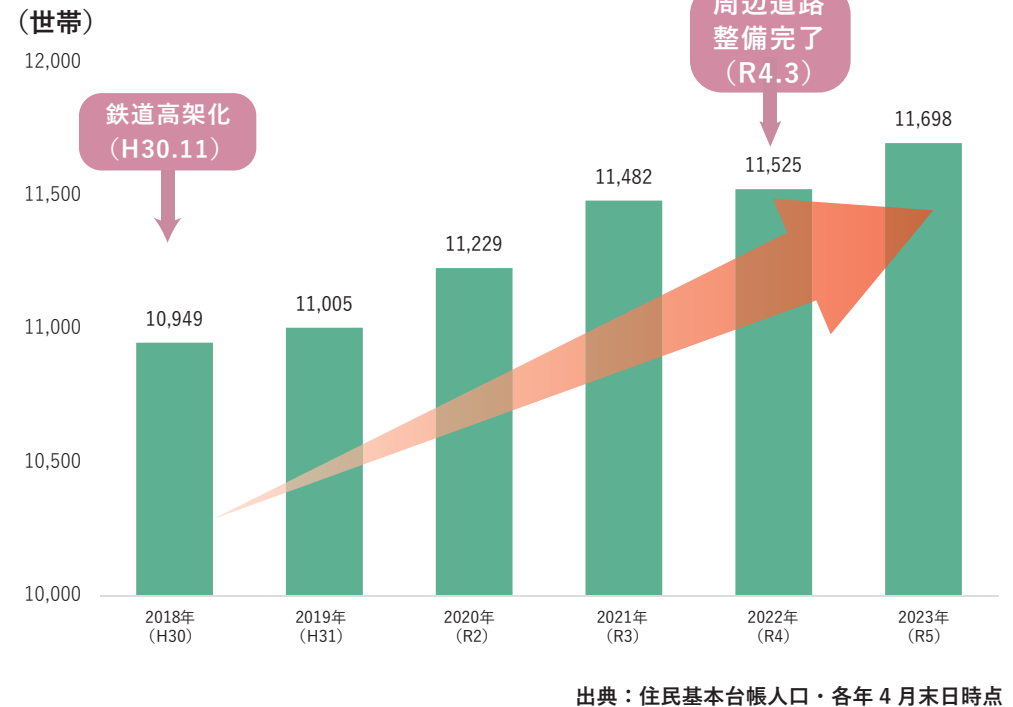
駅が明るくキレイで、人に自慢ができるまちになったと思います。



世帯数の増加

マンション等の建設も進み、沿線地域*の世帯数が増加しています。

※沿線地域：和田一丁目、星川一丁目、星川二丁目、星川三丁目、川辺町、神戸町、天王町一丁目、天王町二丁目



事業の便益

移動時間の短縮などによる令和4年から令和5年の便益は約93億円で、今後も継続して効果が見込まれます。

連続立体交差事業による便益

令和4~5年

約**93**億円

移動時間
短縮便益

便益額

約**88**億円

走行経費
減少便益

便益額

約**4**億円

交通事故
減少便益

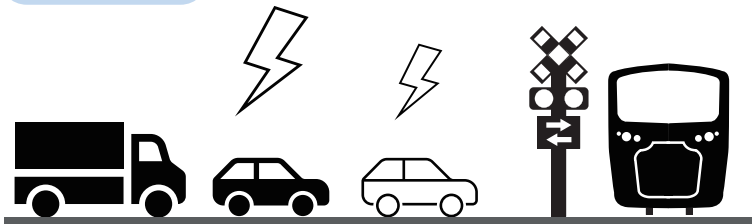
便益額

約**3**千万円

連続立体交差事業により、踏切による渋滞が解消され、自動車の走行時間が短縮することで得ることができる時間価値をお金に換算したものの。

例えば、配送事業者の踏切待ちがなくなり、配送の効率性が高まります。

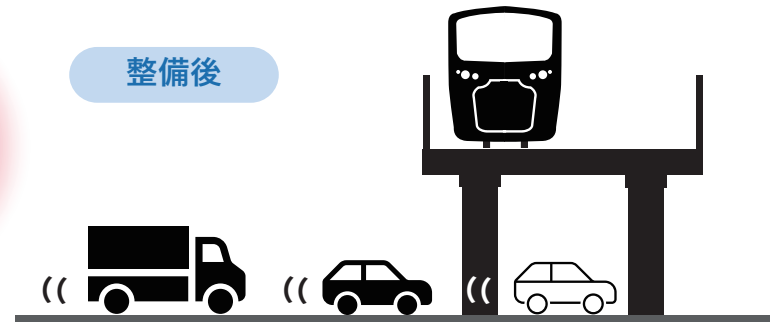
整備前



渋滞解消
速度UP



整備後



算出条件：「費用便益分析マニュアル〈連続立体交差事業編〉」国土交通省道路局都市局（R4.2）を用いて算出

経済波及効果

高架化工事により約910億円の経済波及効果と、新たに創出された高架下空間の活用により年間約20億円の経済波及効果が期待されます。



建設投資の経済波及効果

約**910**
億円

鉄道の高架化の
工事を進めると…



鉄道施設や建設物
に必要な資材等の
生産が増加する



各事業の雇用の創出と
雇用者の所得が増加する



増えた所得が
新たな消費に



高架下施設が
できると…



販売に必要な
材料等の生産が
増加する



高架下空間の活用による経済波及効果

年間
約**20**
億円

出典：H26 商業統計、算出条件：横浜市産業連関表（平成27年表）、横浜市経済波及効果分析ツールを用いて算出

相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

鉄道高架化整備効果

お問合せ先

横浜市道路局 建設部 建設課
(鉄道交差調整担当)

〒231-0017

横浜市中区本町6丁目 TEL 045-671-2792

50番地の10 FAX 045-663-8993

相模鉄道株式会社 施設部 建設課

〒241-0024 TEL 045-520-4331

横浜市旭区本村町 23-11 FAX 045-520-4337

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA



横浜市と相模鉄道株式会社では、新たな連続立体交差事業として「相模鉄道本線（鶴ヶ峰駅付近）連続立体交差事業」を進めています。

横浜市 HP



相鉄グループ HP
踏切を減らす
(連続立体交差事業)



相模鉄道キャラクター
そうにゃん